

基調講演



基調講演 1

10:00~

付加価値創造に向けた
軸のブレない技術経営(MOT)のあり方

神戸大学経済経営研究所 教授 延岡 健太郎 氏

本講演では、技術経営(MOT)の視点から、持続的な競争力を持つための戦略と組織マネジメントについて説明します。近年、景気が上向き、全体的に業績の底上げが見られます。しかし、製造業の競争力を短期的な業績だけで判断するのは危険です。景気の動向や個別商品の成否に一喜一憂しては、真に強い製造企業にはなれません。製造業の経営は一層複雑で難しくなっています。市場の動きは一段と速くなる一方で、技術を構築するには長い積み重ねが必要です。また、顧客ニーズに合った商品を開発するだけでは、利益に結びつかない事例が増えてきました。例えば、モジュール化が進む電機業界では、日本企業の技術力に見合った利益をあげることができません。安定的な業績をあげるためには、真に強い企業が求められているのです。その実現には、軸のブレない技術経営によって、特定分野における組織能力を鍛え上げる必要があります。この点を、事例を使って説明します。

【講師略歴】1981年大阪大学工学部精密工学科卒業。自動車会社で8年間商品戦略の企画推進を担当。マサチューセッツ工科大学(MIT)で経営学修士号(1988年)、経営学博士号(1993年)取得。1994年より神戸大学経済経営研究所助教授。1999年教授。2001年独立行政法人経済産業研究所フェローを兼務。主要著書:「マルチプロジェクト戦略(有斐閣)」「製品開発の知識(日本経済新聞社)」「MOT[技術経営]入門(日本経済新聞社)」など。



基調講演 2

11:00~

感動 — 心・感性の成長が導く
個人の自律・リーダーシップ

株式会社神鋼ヒューマン・クリエイト 林 敏之 氏

命がけでやってきたラグビーから得られた感動。気づきや感動をもらった私にとっての憧れの「ヒーロー」との出会い。これらの多くの感動によって自分自身の心・感性の成長があった。同志社大学、神戸製鋼、日本代表でキャプテンを全うできたのは「感動」のおかげである。キャプテンとして、あるいは一人の選手として、自分で考え、自分で行動できるという「自律」は、感動によって得られた心の成長によるものだ実感している。ひとり一人の自律は、適切なリーダーシップの下で、チーム力の向上(成熟)につながる。本講演では、ラグビーを中心として得られた感動の体験、研修事業の実践の中で受講者にどのように心・感性の成長を促してきたか、さらには、「将来世代育成プロジェクト—ラグビー—寺子屋」(「NPOヒーローズ」)における世代を超えた感性教育(自分自身の大切さ、存在価値、感謝の気持ち)での人々の目の輝きを、講演に参加する方々に、熱い魂をもって語る。

【講師略歴】1982年同志社大学卒業。神戸製鋼所入社。調達部、人事部、用地開発部を経て、1996年神鋼ヒューマン・クリエイト。同志社大学3年から13年間ラグビー日本代表のフォワードとして活躍(代表キャップ38)。神戸製鋼所の7年連続日本一にも貢献。同志社大学・神戸製鋼・日本代表ではキャプテンもつとめた。1989年に山ごもり訓練を体験し、行動科学、禅、東洋哲学に目覚める。現在、心のふれあいを大切に感性開発の道を求めて活動している。2006年 NPOヒーローズを設立。

プロジェクトマネジメント・フォーラム2007 KOBEは、各種ポイントの認定対象となります。

CPU	発給ポイントは1時間当たり2ポイントです。	14ポイント
PDU	PMP®向けPDU発行対象です。	7PDU
知識ポイント	ITコーディネータ資格者に付与されます。	1.75ポイント
PMP®資格認定試験受験用受講証明書		7時間

各種
ポイントの
認定対象
となります

プロジェクトマネジメント・フォーラム 2007 KOBE プログラム

09:10		開場・受付開始
09:40	3階ホール (定員397名)	開会宣言 : 山崎正敏 日本プロジェクトマネジメント協会理事・PMAJ関西代表 主催者挨拶 : 田中 弘 日本プロジェクトマネジメント協会 代表・理事長 来賓挨拶 : 八島毅祐氏 近畿経済産業局製造産業課 課長
10:00		基調講演1: 延岡 健太郎 氏、基調講演2: 林 敏之 氏

トラック	13:10~14:10	14:30~15:30	15:50~16:50
P2M 9F 904+905 (定員66名)	【PM-1】 “プロジェクトX”に学ぶ —実践事例から見たリーダー像 の探求— 海藏三郎 パナソニックラーニングシステムズ 株式会社	【PM-2】 P2M実践事例 —社内情報システムの刷新 プログラム— 古屋雅啓 新日鉄エンジニアリング株式会社	【PM-3】 イノベーション推進による新事業 創出におけるMOT(技術経営) の重要性 —プロジェクトマネジメント型 MOT実践事例— 松本 毅 株式会社アイさぼーと
IT 9F 901 (定員108名)	【IT-1】 IT事業におけるマルチプロ ジェクトマネジメント(MPM) —同時並行独立プロジェクトの マネジメントプロセスを考える— 山口健一 株式会社富士通関西システムズ 東 秀和 データプロセス株式会社	【IT-2】 CMMI®によるプロジェクト管 理のプロセス改善と組織の成 熟度の向上 赤松康至 オムロン株式会社	【IT-3】 医療現場におけるITプロジェ クトマネジメントとチーム育成 成熟度の向上 宮原勅治 神戸市立中央市民病院
エンジ 建設・製造 9F 902+903 (定員60名)	【EG-1】 建設業におけるPM実践力の 構築 —「OJTマップ」の活用による 実施事例— 佐藤光宏 株式会社竹中工務店	【EG-2】 鉄道車両設計業務における プロジェクト管理の課題と対 策 林田昌三 川崎重工工業株式会社	【EG-3】 マネジメント改革の工程表 —CCPMのマルチプロジェクト マネジメント成功の極意— 岸良裕司 日本TOC推進協議会
ヒューマンリ ソース・組織 8F 802+803 (定員60名)	【HR-1】 理想のPMO構築に向けて —PMAJ関西PMO研究会 成果発表(第1フェーズ)— 橋本欽司 PMAJ関西PMO研究会 主査	【HR-2】 個の自律による未成熟なプロ ジェクト組織の活性化事例 —PMOアプローチの実践— 山崎正敏 Aj ビジネス・プランニング/ 有限会社ピーエム情報技術研究所	【HR-3】 チームと個人を幸せに導くプロ ジェクトマネジメント —プロジェクトを進化させるため のプロジェクトマネージャーの 心得と行動— 近藤哲生 有限会社ウインアンドウイン

懇親会 10F レセプションルーム 17:30~19:30	懇親会では、講演者、広い層の参加者、フォーラムメンバーとネットワークを広げる交流の場を提供致します。日頃PMAJ関西の活動に参加されていない方でも、気軽に仲間づくりができる場にできればと考えています。ひとりでの参加でも、お気軽にお申込ください。
---	--

※プログラムの詳細(セッション概要、講師略歴)はホームページをご覧ください。またパンフレットもダウンロードできますのでご利用下さい。http://www.pmaj.or.jp/